

NEW HORIZON

English Course



フォント開発会社大手

モリサワ



 東京書籍

読みやすく、書きやすい 書体を新たに開発！

開発プロセス

その1

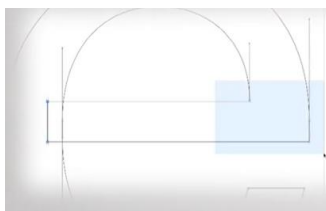
読みまちがいが起こるケースを徹底調査

Oce
S36

例えば、「oとcとe」や「S36」など、形の似ている文字がとなり合うと、「読みまちがい」が起こりやすくなることがわかりました。

その2

カーブや角度、太さを調整して読みやすさを追求



モリサワの開発担当者が語る、
書体開発についての動画はこちら！



完成！

Oce → Oce
S36 → S36



cの空きを若干広げたり、eの線の太さを調整するなど、細かい調整を行いました。



Sの空きを調整して読みまちがいを防止しています。



日本語と併記した場合の読みやすさも考慮して、全てのアルファベット書体を開発しました。
Key Sentencesの解説などでも使用しています。

▶ p.28 Grammar 2

接続詞 that

think (that) ... は、「…と思う」という意味になる。that は省略されることが多い。

Dクイズ

裏面では、Book 1全編で使用しているユニバーサル書体(現行版から継続)についてご紹介します！

Book 1の全編:ユニバーサルデザイン書体を採用

Part 1 自分の名前や好きなものを伝えよう
Hello, Everyone! Unit 1

Enjoy Communication

① あいさつをして、今の気分や状態を伝えましょう。

私たちが3年間をいっしょに過ごします。英語の授業を通しておたがいの新たな面を発見しましょう。

② Hi, how are you?
A: Hi, how are you?
B: I'm fine. How about you?
A: I'm great!

great fine good

▶ p.140 練習で使う

③好きな食べ方や飲み物を伝えましょう。好みは同じ人はいませんか。

④ What food do you like?
A: I like sushi. How about you?
B: I like pizza.
A: I like pizza.

pizza curry and rice pancakes

▶ p.142 練習で使う

Story

エディが教室の前で自己紹介をしています。エディは何部に入りたいと言っていますか。

Hello, everyone.
I'm Edward Trout. Call me Eddy.
I'm twelve. I'm from South Africa.

ダイバーシティメモ
南アフリカ共和国
南アフリカ共和国はアフリカ大陸の南端に位置しています。さまざまな人種の人が暮らす多民族国家です。

New Words

- call
- South Africa
- love
- 小学校の部組
- everyone
- me
- from
- Japanese
- sweet(s)
- and
- too
- join
- the
- club
- Call me ...
- want to
- number(s)

▶ p.140 練習

2人以上の人や2つ以上のものは、多くの場合、名詞にはまたはを付けます。▶ p.144

I like Japanese sweets.
I love daifuku and ammitsu.
I love matcha, too.
I want to join the sado club!

[34 words]

Your Turn

① Enjoy Communicationや本文をふり返し、自分の名前と好きなものについて言きましょう。
② ①で話した文を書きましょう。

I'm _____
I like _____

12 | twelve
thirteen | 13

文字習得の負担を大幅に軽減

手書き文字に近い書体を開発し、1年生の全編で使用しています。文字の形がわかりやすく、読みまちがえにくいため、読み書きの学習の負担を軽減します。

書きやすさに配慮した四線

文字の書きやすさに配慮して、第2線と第3線の幅を広げた四線も独自開発。教科書で使用しているほか、教師用指導書にデータを収載予定です。



アルファベットの書体は、英語の学習にとっても大切な要素です。令和7年度版 NEW HORIZONでは、1年の全編で、手書き文字に近いユニバーサル書体を使用しているほか、小中接続期の冒頭では、なぞり書きを取り入れるなど、「書くこと」への負担に配慮しています。

さらに今回、「読み書きでつまずく生徒をゼロにしたい」という思いのもと、東京書籍はフォント開発会社大手である株式会社モリサワとタッグを組み、読みやすさを追求した書体を新たに開発し、本文のタイトルやKey Sentencesの解説部分などに使用しています。

小文字のoとcとeなど、形が似ていることを原因とする「読みまちがい」を防ぐために、文字の細部にまで調整を行いました。